

# 化石館だより

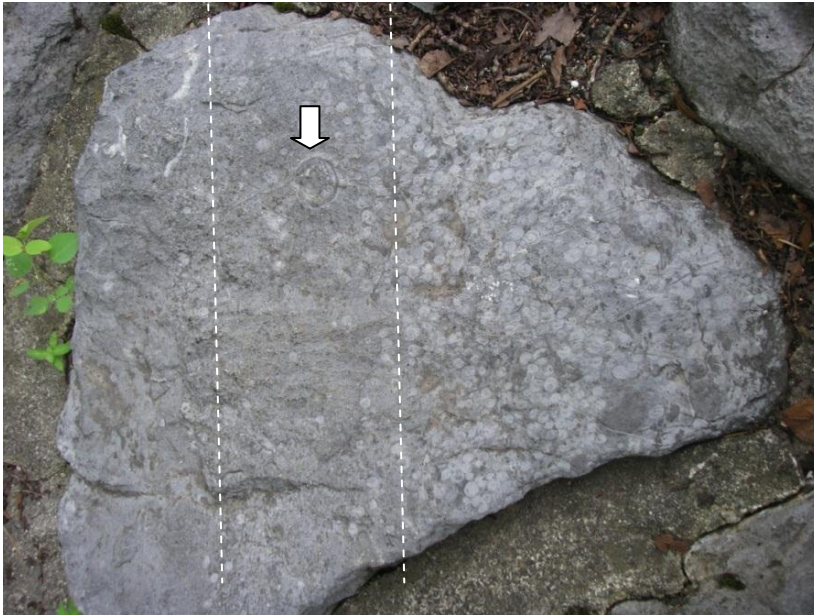


## コラム

### 堆積時の様子を想像してみよう

今回も当館アプローチの石組で観察した化石についてです。

館内に展示されている化石は、化石となった古生物の姿がよく分かるように、母岩からきれいに剥離した標本や、クリーニングを施した標本が多く、母岩や地層中に化石がどのような状態で保存されているか（産状）を観察できるものはわずかです。一方、アプローチの石組には化石の産状をよく留めている石がいくつもあります。化石となった古生物の名前やその形態を確認することは、来館される方々の主たる目的と思いますが、産状に着目して観察してみると、化石化の過程や古生物の生活の仕方、生息環境などを想像することができ、より興味深くなると思います。



写真の石には、白く丸い粒がたくさん入っています。この一粒々々はヤベイナというフズリナの化石です。近づいてよく見ると指の指紋のような渦巻き模様が見えます。フズリナは単細胞の生物ですが、石灰質でできた複雑な構造の殻をもっていました。フズリナの仲間は、この殻の形や微細な構造の違いで分類されています。さて、この石では右側にフズリナが密集していますが、中央部から左には少ししか入っていません。

左端ではもっと少なくなります。そして、こうした部分は点線で示したように三層に区分することができます。

密集しているフズリナをよく観察してみましょう。大きさは比較的そろっています。そして、殻の外側部分はそれほど摩耗していません。このフズリナたちは、近くの生息地からまとまって流され堆積しました。その際、水流によって大きさが選別されたのです。摩耗が少ないことから水流で転がされている時間は比較的短かったと思われる。フズリナ密集部分と粗





密部分との境界は、水流の強さが変化したことを示しています。またこの境界面は、大量のフズリナが流れ込んだ時の海底面と考えられます。

矢印で示した部分には巻貝の化石があります。巻貝の周りは細かな粒子で満たされています。水流の強さはフズリナ密集部を堆積させたときよりも弱くなったようです。巻貝や所々にみられるフズリナは、細かな粒子が堆積していく過程で逐次入り込んできました。

巻貝を拡大してみると殻の外周には7箇所小さな出っ張りがあります。この巻貝には明瞭な縦筋（縦肋）があったのです。殻の内側にはフズリナ化石が入っています。貝が死んだあと、フズリナを含む砂泥が入り込んだのです。フズリナが入っているのは右側部分に偏っています。このことから右側を下にして横たわっていたことが分かります。上下関係が推測できるこうした構造は「ジオペタル構造」とよばれています。

細長い巻貝は、通常殻軸を海底面に平行にして横たわります。ほぼ円形に近い断面が見えていますから、殻軸はこの断面に対して垂直方向に走っているようです。このことは、フズリナの堆積状況から考えた海底面の方向ともうまく整合します。

化石の入った一つの石の観察からいろいろな想像が膨らんでいきました。もちろん推定の段階ですから、正確にはもう少し詳しく調べなくてはなりません。化石となった古生物の名前や形を調べるのは違った化石の楽しみ方が見えてきたのではないのでしょうか。



## お知らせ



### 赤坂・青墓 歴史探訪ウォーキング

9月23日（月・祝） 午前9時から、赤坂と青墓の観光スポットを巡り歩きます。

AコースはJR美濃赤坂駅から、Bコースは大垣市歴史民俗資料館からスタートし、スタンプポイントを巡りながら最終地点昼飯大塚歴史公園に向かいます。ここでは、**イベントやおもてなしサービスもあります。**

金生山化石館もスタンプポイントとなっています。ウォーキングに参加された方には、**200名限定で「化石ストラップ」をプレゼント**します。ぜひご参加ください。

問合せは、大垣市教育委員会文化振興課（☎0584-81-4111 内線：786）へ。

問い合わせ： 大垣市金生山化石館 電話 (0584) 71-0950 (ファックスも同じ)

Email [kasekikan@vanilla.ocn.ne.jp](mailto:kasekikan@vanilla.ocn.ne.jp)